

【目次】

1. アーカイブ No.3

連載「日本労働会館物語」第 38 回 2012.10.01 発行の第 55 号に掲載

2. 2023 年 4 月 29 日(土)～5 月 7 日(日)の期間、友愛労働歴史館の休館のお知らせ

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

1.アーカイブ No.3

連載「日本労働会館物語」第 38 回 2012.10.01 発行の第 55 号に掲載

連載「日本労働会館物語」第 38 回

〈なぜ今、ユニテリアン、惟一館(友愛会館)なのか〉

本連載「日本労働会館物語」は、友愛労働歴史館の開設準備などによりお休みしていましたが、本号から再開いたします。今回はメールレポート「友愛労働歴史館たより」第 49 号(5 月 2 日付)に、「なぜ期成会はつぶされ、友愛会は生き残ったか！」と題して掲載いたしました。



今回以降はユニテリアン教会・惟一館で誕生した友愛会と、その拠点となった惟一館(現友愛会館)について記述いたしますが、ここで今一度、ユニテリアンと惟一館について整理しておきます。



惟一館は米国ユニテリアン協会が明治 27(1894)年 3 月、自由基督教の活動拠点として建設したもので、その後、日本労働会館、総同盟・全織会館、友愛会館・三田会館と変遷(写真参照)し、2012 年 1 月に新友愛会館として竣工しています。

現在、ユニテリアンや惟一館(昭和 20 年 5 月、山の手大空



襲で焼失)が注目される理由は、次の通りです。

①ユニテリアンは合理的、科学的な考えに立脚し、また宗派性を持たず、他宗教との共存をめざす寛容で開かれた人たちであること

②それ故、福澤諭吉らがユニテリアンに共感し、彼らを日本に招聘したこと、③明治 31(1898)年、ユニテリアンの安部磯雄らにより社会主義研究会(後の社会民主党・明治 34 年)が結成されたことにより惟一館は「日本社会主義運動発祥の地」とされたこと、④大正元(1912)年、ユニテリアンの鈴木文治らにより友愛会(後の連合)が結成されたことにより惟一館は「日本労働運動発祥之地」とされたこと、⑤惟一館の設計者は J・コンドルであり、最近の東京駅復

元により彼とその教え子(東京駅を設計した辰野金吾ら)が脚光を浴びていることなどによります。

コンドルの建築物としてニコライ堂、岩崎邸(写真)、古河邸、島津邸、三井倶楽部などが現存し、また惟一館と同じ明治 27 年には神田青年館と三菱一号館が建設されています。コンドルの弟子には辰野金吾の他、慶応義塾図書館などを設計した曾禰達蔵(曾根益民社党初代書記長の父)らがいます。

2.お知らせ

①友愛労働歴史館のゴールデンウィークの臨時休館日

5月1日(月)と2日(火)、臨時休館とします。

2023年4月29日(土)～5月7日(日)の期間、友愛労働歴史館は休館とします。

-----「人間の尊厳、進歩と発達のために」-----

発行:友愛労働歴史館

責任者:藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール yuirodorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuirodorekishikan.com>

-----惟一館から 128 年、友愛会から 110 年-----